

# 野生絶滅植物ナルトオウギの発芽試験

蔵本技術部門

研究開発支援グループ（薬用植物園） 今林 潔（IMABAYASHI Kiyoshi）

## 1. はじめに

徳島大学薬学部薬用植物園は 1966 年に薬学部学生の教育と研究を目的として設立された。絶滅危惧植物の保護啓蒙を目的とした絶滅危惧植物園にはナルトオウギ、コブシモドキ等の徳島県固有種を中心とした植物を維持栽培している。ナルトオウギ *Astragalus sikokianus* Nakai（図 1）は 1950 年に徳島県鳴門市大島田島で発見されたゲンゲ属の植物である。本植物は国内では鳴門市でしか採集された記録がなく、発見後しばらくして絶滅している。しかし 1950 年に、当時の地元高校生が採集していた本植物果実を植物研究家が譲り受け、1972 年に発芽を成功させた。その系統が、現在、本園や全国の植物園等に維持栽培されている。このように野生絶滅した植物が発見から約 20 年後に蘇ったのは非常に珍しいケースである。



図 1 ナルトオウギ

## 2. 目的

徳島県の野生絶滅危惧植物は 2 つあり、木本のコブシモドキと草本のナルトオウギである。本園は多くの他大学等の薬用植物園と種苗交換など交流があり、数年前から本植物が交換品目として要望されることがある。そこで、本園には 2007 年 7 月 28 日に収穫した本植物の果実を冷蔵保存しており、過去の発芽事例検証も兼ね、果実収穫後から 20 年経過し

た本植物の発芽試験をしたので報告する。

## 3. 方法

2020 年 6 月 9 日、本植物の乾燥果実（図 2）から 200 粒の種子（図 3）を取り出し、このうち 100 粒を中目 #240 の布やすり（図 4）で全面を丁寧に研磨した<sup>[1]</sup>。残りの 100 粒は何もせず、研磨群と未処理群をケースに分け、それぞれ 1 時間浸漬した。つぎに、黒ポットに市販の赤玉土小粒を 8 分目まで入れ、上部に小さくカットしたティッシュペーパーを敷き、1 粒ずつ播種した。その後、種子が隠れる程度に同じ土を被せ、屋外で防虫ネット（図 5）を被せ自動灌水で毎朝 1 時間灌水をセットし 2 ヶ月間観察した。徳島市 6 月の平均気温は 23.2℃、7 月は 25.8℃であった。



図 2 ナルトオウギの乾燥果実



図 3 ナルトオウギの種子

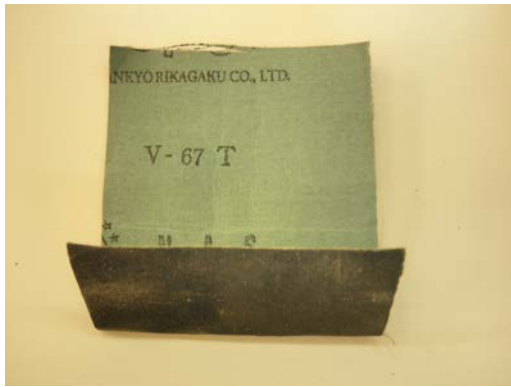


図4 中目 #240の布やすり



図5 防虫ネット

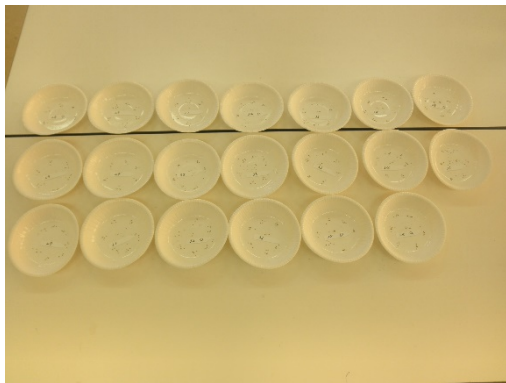


図6 20個の乾燥果実



図7 45粒発芽した研磨群



図8 発芽したナルトオウギ

#### 4. 結果と考察

20個の乾燥果実にはそれぞれいくつ種子が入っているのか調べてみると、28粒から38粒の種子数だった。内訳は28粒-1個、29粒-4個、31粒-2個、32粒-3個、33粒-4個、36粒-2個、38粒-1個という結果となった(図6)。発芽試験では研磨群は45粒発芽し(図7)、未処理群は2ヶ月経過後もすべて発芽なしという結果となった。このことから本植物は採種してから20年経過していても、布やすりで研磨する行為など、種子に傷をつけると発芽するということがわかった。今回の発芽した苗は本園のロックガーデンで保存栽培している(図8)。本植物は徳島県レッドデータブックでは絶滅で、環境省レッドデータブックでは野生絶滅というランクになっている。一度絶滅した植物はもう戻らない。本園はこれからも本植物を見守りたいと思う。

#### 謝辞

今回の発芽試験でお世話になった徳島県立博物館の茨木靖先生および徳島大学薬学部生薬学教室教員には深謝します。

#### 参考文献

[1]茨木靖(2001)ナルトオウギの発芽特性  
徳島県立博物館研究報告 第11号